

## 胎内記憶から考えられる生死

池川 明

池川クリニック 院長

出生前・周産期心理学協会 (APPPAH) アドバイザー

### Considerations of Life and Death from Memory: Memories before and at Birth

Akira Ikegawa

Ikegawa Clinic

#### キーワード

生	life
死	death
出生前	prenatal
出産	birth
記憶	memory

#### I. 胎内記憶とは

胎内記憶は胎内にいたときのことを覚えている現象を指し、さらには生まれる前の肉体を持たない時期（中間生）の記憶も含む広い概念が包含される。子どもから大人に至るまで本来であれば覚えているはずのない記憶、として捉えられている。

#### II. 胎内記憶調査から考えられる生死

2000年頃から主にアンケート調査で調べた結果から、生死がどのように考えられるのかという提示をしたい。

以下に胎内記憶調査の経緯をお示しする（図1）。

- 平成9年10月 田口教育研究所との出会い
  - 1997年 産科が良くなると学校が良くなると
- 平成12年8月-12月 79名のアンケート調査
  - 79例中42例 52%に胎内記憶あり
  - 平成13年9月 全国保団連で発表
- 平成14年8月 諏訪市でアンケート調査
  - 2002年 1773例中838例回答47.3% 243例 34.4%記憶あり
  - 平成15年8月 帝京大学で発表
  - 平成15年11月 FIGO 2003 チリにて発表
- 平成15年12月 塩尻市でアンケート調査
  - 平成15年 1828例中782例回答42.8% 243例 31.1%記憶あり
  - 平成16年 赤ちゃん学会で発表
  - まとめを平成17年(2005年) JOPPPAHに投稿

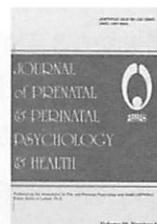


図1 胎内記憶調査と発表

最近では中部大学の大門正幸教授が前世記憶からのアプローチで胎内記憶に調査を広げて下さり、現在前世記憶の世界の中心であるバージニア大学に客員教授として御活躍され、恐らく前世記憶を持ち中間生の記憶を合わせ持つ子どもの報告を“Children with Life-between-Life Memories”（中間生記憶を持つ子ども達）として Society for

Scientific Exploration 学会で発表、さらにその論文は Society for Scientific Exploration (SSE) の機関誌に掲載された（図2）。

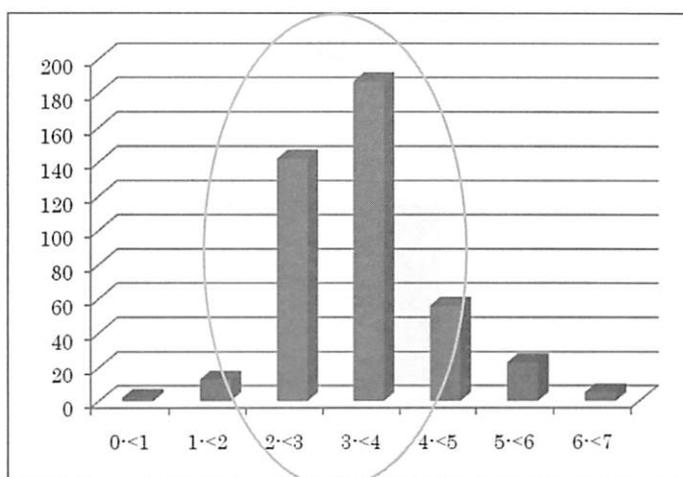
胎内で語り始める時期は2-3歳が圧倒的に多く、年齢が進むと語る子は少なくなるが、成長に伴い語彙が豊富になるので、内容の豊かさは増す。5歳頃になると詳細な聞き取りも可能である（図3）。



Society for Scientific Exploration学会（デトロイト）大門先生が共同研究“Children with Life-between-Life Memories”（中間生記憶を持つ子ども達）を発表 2013年6月7日  
大門正幸中部大学教授 バージニア大学客員教授

図2 大門正幸教授との学会に於ける共同発表

### 胎内記憶を語り始めた時期



appah December 2005 vol 20 issue 2

図3 胎内記憶を語り始める時期

年齢が進むと記憶が無くなる、と巷では言われているが、調査したアンケート結果からは大人になっても1%の人には記憶が残るといった結果となった。

また、ベル三好幼稚園では、年少、年中、年長の順で記憶の保有率が下がることを報告し、年齢と共に記憶の率が減ることが示された(図5)。

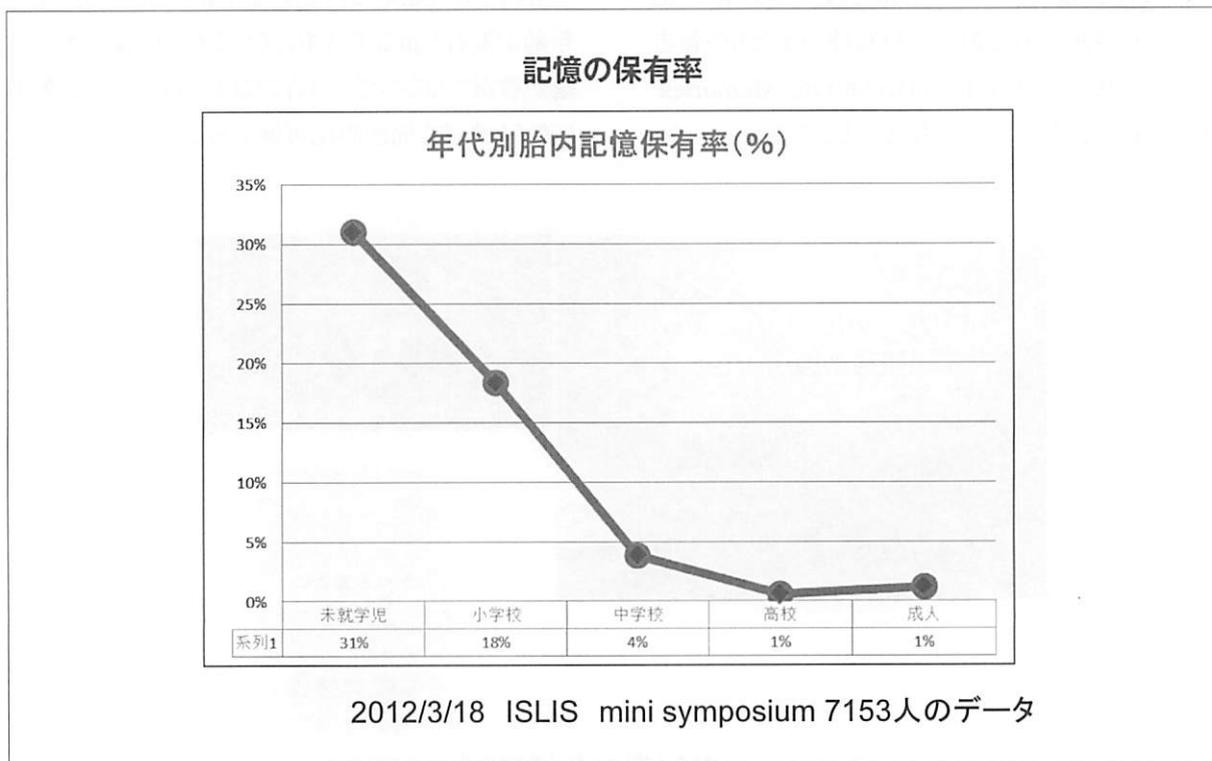


図4 胎内記憶の年齢別保有率変化

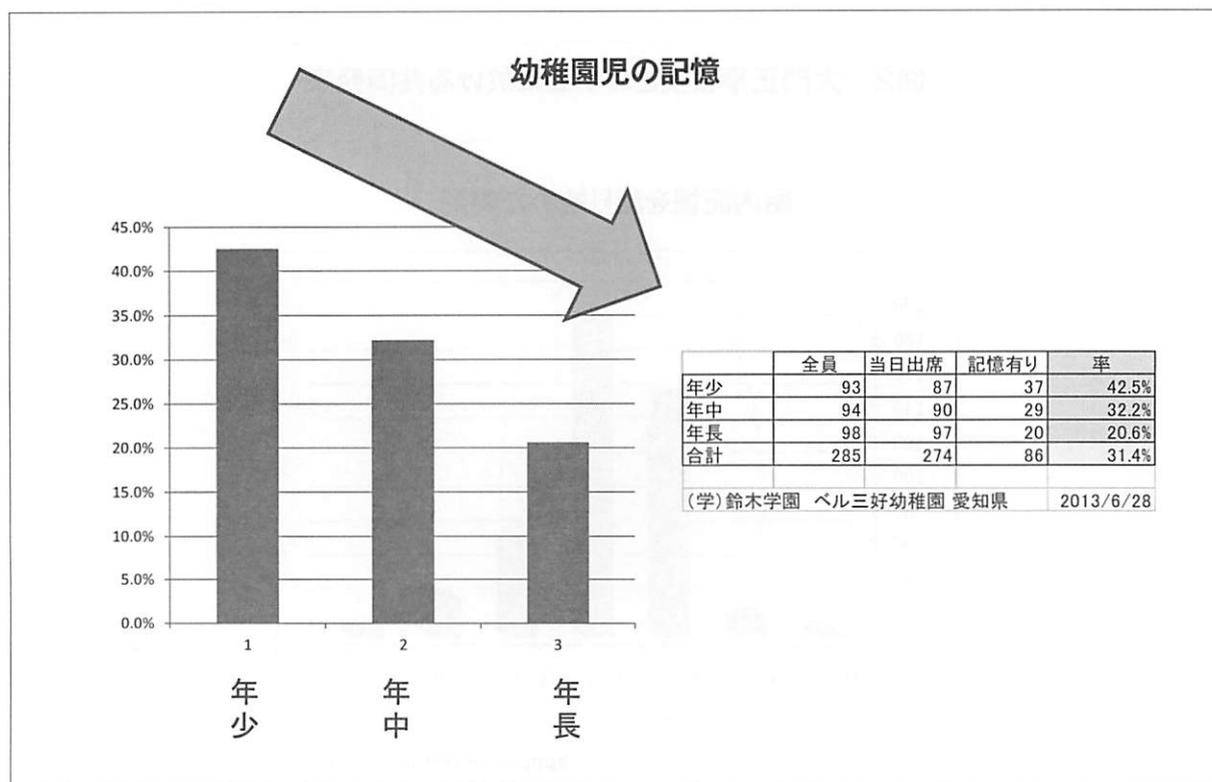


図5 幼稚園児の記憶保有率変化

子どもが語る生まれる前のいわゆる「中間生」の状態は、小学4年生の頃から記憶の話を教えてくれた現在20歳の方の子どもの時に描いた絵が残されている(図6)。

雲の上に女神様がいて、その服はとても綺麗な金色に光る生地できており、その周囲にはこれから産まれる子どもたちが沢山遊んでいて、雲の右端の丸い部分は鏡のようにきれいで、そこにこれから選ぶ両親が写るといふ説明を受けた。そして両親を選ぶと女神様に報告し、許可をもらうと天使が羽をつけてくれて、絵の右下の部分には子どもとガイドする天使が雲から地上の両親に向かう瞬間が描かれている。

子どもや記憶のある大人の胎内記憶をまとめると、図7のように、自分で人生を決め、それぞれに最適な両親、場所、時間を設定して降り立つ仕組みのようにまとめられる。

言い換えれば、4つの命、宿命(初期設定で産まれた場所、時間、両親など変えられないもの)、天命(本来自分の生まれてきた目的:人の役に立つため、と多くの子は言うその目的)、宿命から天命につながる運命(どのようなルートをとっても天命に向かえばよい、という事らしい。従って運命は自分の意志で変えることが出来る)、その3つをつなぐのが使命という事になるようである。

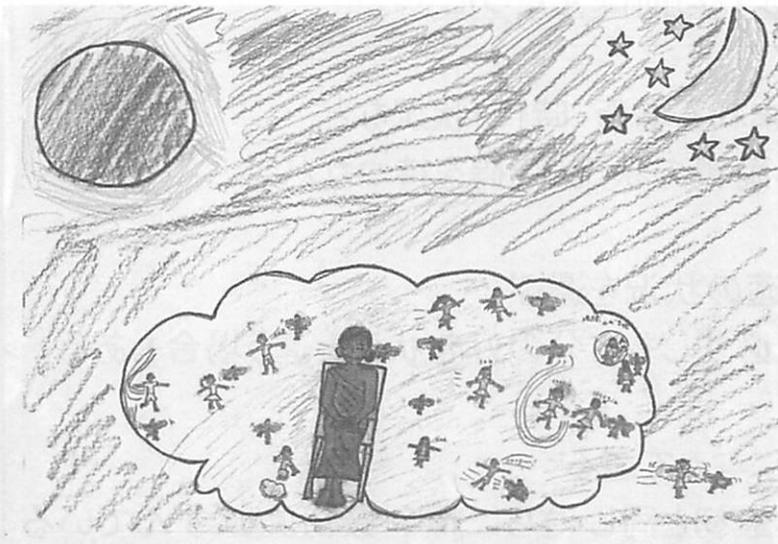


図6 小学生の描いた生まれる前の雲の上の様子

### 自分の人生は自分で決める

- 宿命(人生の初期設定)
  - 生まれてきた場所・時間・両親など
  - 初期設定は変えられない
- 運命(人生の生き方)
- 生き方は自分で選べる
- すでにその人生の選択肢は生まれる前に決めてくる

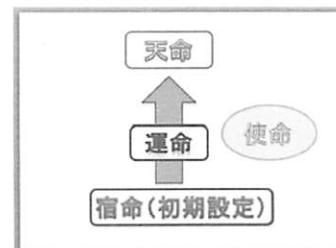


図7 4つの命の関係 自分の人生を自分で決めることが出来る

そして胎内記憶の内容は図8のようにまとめることができる。

人間の人生は死で終わりを迎えるわけではなく、魂がこの世に降り立ち、また空に還りまたこの世に降り立つ、という輪廻転生の循環があることを胎内記憶は教えてくれる。

もしこの現象が正しいと受け入れると、死生観の姿容が見られ、人生そのものに対する見方が変わる人も出てくる、のではないかと思われる。

#### 謝 辞

最後に、日本保健医療行動科学会のシンポジウムにお招き頂き、発表の機会を与えて頂きました橋本佐由理大会長に深くお礼申し上げますと共に、および座長の労をおとりいただいた諏訪茂樹先生に深く感謝申し上げます。

#### 記憶の内容

- 生まれる前は光だった
- 生まれる場所・時代・状況など
  - 両親の状況・障害を持つなど
- 最適の状況を選ぶ
  - 必ずしも自分の好む状況と違う場合もある
- 光になって還る
  - 最初と同じ・さらに輝く・最初よりくすんでいる
  - 還ってこない場合もある

図8 胎内記憶の内容のまとめ